

戦争法案の廃案にさらなる協力を

7月29日8時30分から名寄庁舎前において、「戦争参加法案阻止 民主党北海道全道キャラバン」が行われ、「ささき隆博」民主党北海道代表（衆議院議員）が国会での議論状況について報告し、法案の廃案にむけさらなる協力を訴えた。

立憲主義に反する強行採決

国会では、今週から参議院において安保法制11法案の審議が行われている。衆議院では160時間審議をしたからもういいのではないかということ、7月15日特別委員会での強行採決がされた。この7月15日の特別委員会では我々の仲間が総理に「国民の理解が進んでいると思うか」という質問をしたが、総理は「まだまだ十分に理解は進んでいない」と答弁をした。この答弁の直後に強行採決となり、まさに許されない暴挙と言わなければならない。そして、7月16日には本会議で強行採決。2度も強行採決でこの法案を衆議院を通過させるという結果になった。いま国民の8割がこの法案の理解が進んでいないとアンケートに答え、6割の方がこの法案は反対だと答えている。こうした状況のなかで強行採決など断じて許されることではないし、同時に私も議員は、国民が違

憲と云うなかで国民にかわって法律を審議することが役割であり、その意味からしても国民の大勢の皆さん方が反対をしているなかで、強行採決というのはまさに立憲主義に反しているといわなければならない。

なんとしてもこの法案を廃案にしていく為に、ぜひとも市民・国民の皆さんの大きなお力をいただきたい。運動への更なる参加を心からお願いをいたします。



ささき隆博 衆議院議員

慎重審議の意見書を可決

奥村組織内市議

全国の30を超える地方議会において、反対・慎重審議を求める意見書が可決され衆議院に提出をされており、名寄市においても6月議会において全会一致で慎重審議を求める意見書を可決提出してきた。慎重審議ではあるが内容は、「海外での武力行使を禁じた憲法9条の根幹を変えてはなりません。また他国防衛を目的とした集団的自衛権の行使は認めないことを強く求

めます」となっている。6月21日には私自身も西條前で署名の呼びかけをし、最初はなかなか協力を頂けなかったが、「戦争をさせない為の署名です」と声をかけるとお年寄りから高校生とされる若い人まで応じてくれた。今後も市民の思いをしっかりと受けて廃案にむけて取り組みを進めていく。

女性の立場で市民の命を守る

高野組織内市議

名寄市内の自衛隊員の家族の方と話をする機会があり、「夫を戦争に行かせたくない。家族を戦争に行かせたくない。本当にそんなことになるんでしょうか」という声を聴いている。自衛隊のまち名寄として、同じ市民の命を守るために何としてもこの法案は阻止しなければならない。私たち女性は子どもを産み育ててきたが、戦争に行かせるために育てたわけではない。法案阻止にむけ皆さんと一緒に取り組みを進めていきたい。



奥村市議（中央）と高野市議（右）

◇事故が起ったら受付センターへ 0120-810-625（フリーダイヤル）
（自動車共済は2013年6月以降、順次全労済マイカー共済へ契約移管します）

何かあったら、まず組合へ！